

所謂滿洲事變を概観として我邦農民戦線の上には一大異変を来し。例へば日本農民組合の如き旧来の社会民主主義的態度を捨て、皇道會と提携し積極的に國家主義的旗印の下に新たる右翼的運動を起した事は既に社会政策時報並に労働年鑑等に於て屢々述べたところであるが、今この種右翼的運動はともかくとして、現在我國農民運動に於て最も古き歴史を有し、且つその組織地盤に於ても、またその勢力に於ても最も強大と見らるゝ全國農民組合の最近の動向について少しく述べて見よう。

本組合はこれを思想的分野から見れば所謂左翼的な組合と云へる。即ち今日かうした見方ははたして、正確なりや否や疑問とさるゝところであるが、現在に於ても本組合は組合としては政党支持の明確な態度を保留して居るのである。それと云ふのも組合内部に於ては社会大衆党支持派（旧日本労働党派）とそれよりも幾分左翼的態度を持つ一派（別言すれば旧労働党右翼派）とが混合して居り、政党支持の態度を表明すれば組合分裂の危機をさへ招くと云ふ情勢にある爲め、かくは政党支持の態度が保留されて居るのであつて、